

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第50週 (12/7-12/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	50週	49週	48週	47週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	12/7-12/13	11/30-12/6	11/23-11/29	11/16-11/22	11/30-12/6
			50週	49週	48週	47週	49週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		1	2	2	1	15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		7	16	5	8	97
	感染性胃腸炎		37	31	21	13	230
	水痘		8	3	7	2	28
	手足口病		0	0	0	0	1
	伝染性紅斑		0	0	0	0	4
	突発性発しん	○	12	8	11	13	54
	ヘルパンギーナ		2	3	1	2	8
	流行性耳下腺炎		4	2	1	1	7
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	0	3
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	4	5
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(84件)

※新型コロナウイルス感染症80件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~70歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

*第50週は、結核2件(148)、梅毒2件(22)、新型コロナウイルス感染症80件(1212)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第50週のコメント

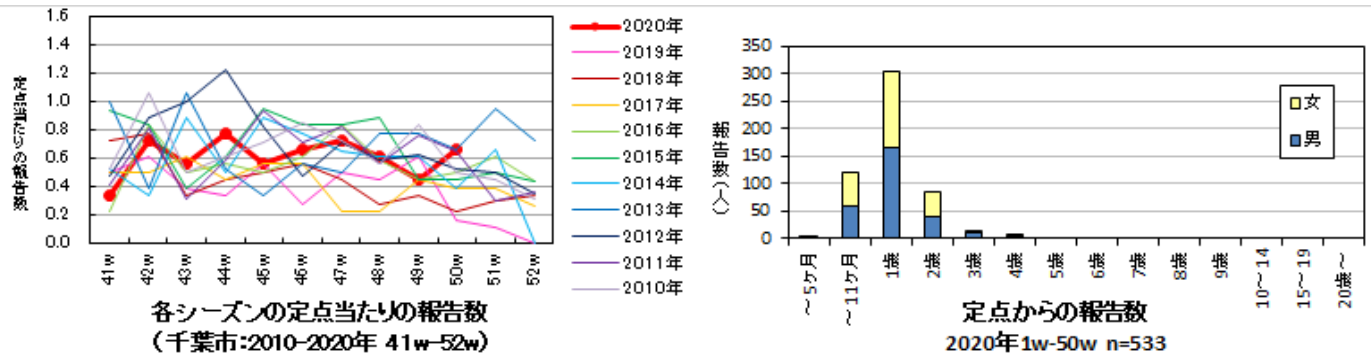
<突発性発しん>前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<突発性発しん>

全国レベルの第49週は0.38で、過去10年の同時期と比べると非常に少なくなっています。都道府県別では、佐賀県、福岡県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は0.40で全国レベルとほぼ同等となっています。

千葉市の第50週は前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、稲毛区(1.67/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2020年第1週から第50週までの累積報告数は533件で、男性が52.9%(282件)、女性が47.1%(251件)で、年齢階級別では1歳(57.2%:305件)、6-11か月(22.7%:121件)、2歳(15.9%:85件)の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第49週は2.41で、過去10年の同時期と比べると非常に少なくなっています。都道府県別では、山形県、佐賀県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は1.70で全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市でも過去10年の同時期と比べると少なくなっていますが、第48週から連続して増加しており、年齢階級別で見ると1歳、2歳、10歳代前半で増加が目立っています。区別の発生状況は、若葉区及び緑区(共に3.5/定点)で最多で、若葉区で1歳、緑区で4歳で最も多く報告されました。

感染性胃腸炎とは、細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。ウイルス感染(ロタウイルス、ノロウイルスなど)が多く、毎年秋から冬にかけて流行します。病原体が付着した手で口に触れたり(接触感染)、汚染された食品を食べる(経口感染)ことによって感染します。

乳幼児で良く見られ、1歳以下の乳児は症状の進行が早いです。潜伏期間は1~3日程度で、主な症状は嘔吐と下痢ですが、嘔吐又は下痢のみの場合や、嘔吐の後に下痢がみられる場合等様々で、症状の程度にも個人差があり、37~38℃の発熱がみられることもあります。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。

予防方法として、ロタウイルスによる感染症については、令和2年10月1日から市内に住民登録がある令和2年8月1日以降に生まれた乳幼児を対象に予防接種が定期接種となっています。ノロウイルスについては、予防接種はありません。その他、トイレの使用後や調理・食事の直前に、石けんと流水で十分に手を洗う、カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱することが重要です。また、便やおう吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。消毒は次亜塩素酸ナトリウムを使用します。詳細は千葉市のWebSiteを参照してください。

<ロタウイルスワクチン予防接種のご案内>

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/hokenjo/kansensho/rotavirus.html>
⇒「ロタワクチン ご案内」で検索可能

<感染性胃腸炎に注意しましょう！(消毒方法を含む)>

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/kansensenseiityouen.html>
⇒「感染性胃腸炎に注意 千葉市」で検索可能

